

第100号刊行記念号 図書館だよりから見る専修大学図書館のこれまでとこれから

図書館の昔と今

図書館長・文学部教授 廣瀬 玲子

1987年から発行してきた『図書館だより』は100号を数えます。この間、大学図書館のあり方は大きく変わってきました。図書館と言えば、かつては、読書をしたりノートをとったりする場所、あるいは借りたい本があれば、カードボックスを調べ、番号をメモして書架に行き、本を探して借り出す場所。いずれにしてもひとりで静かに過ごす場所でした。

もちろん現在でも、図書館は、ひとり静かに本を読んだり勉強したりするための大切な場所でありつづけていますが、そのほかに、グループで学修するための部屋もあれば、映画を見るスペースもあります。

蔵書検索はOPACでおこない、いちいちメモしなくても検索結果をプリントアウトすることができます。また、図書館に足を運ぶことなく、電子書籍の閲覧やデータベースからの雑誌記事のダウンロードをすることもできるようになりました。

大学のアカウントを持っている皆さんには、ぜひOPACのMy Libraryを活用してほしいものです。借りている本の返却期限も確認でき、次の予約が入っていないければ1回は期限の延長もできま

す。今度、見に行こうと思う本をブックシェルフに登録しておく、とても便利です。

時代は移り、図書館のあり方が変わっても、変わらないこともあります。大学図書館の醍醐味は、やはり街の図書館や書店ではなかなか目にすることのない学術図書の所蔵です。皆さんがそれぞれ、専門に学ぼうとしている分野には、この本はぜひ読んでおかなければならないという基本図書があるはずで、それは最近の出版物とは限りません。何十年も前に出版されていても、古くならない本があるのです。

また、それぞれの分野の「古典」と呼ばれる本には、さらに何百年も、あるいはもっと昔のものもあります。それを読めること、読んで理解できることに驚き、また、本当に理解できているのか疑い、何度も読み返してください。そのような経験こそが、学問に触れることなのです。図書館に入ったときに感じる独特のにおいや、本を手に取りページをめくるときの手ざわり。五感をはたかせて、図書館を楽しんでいただきたいと思います。

図書館だよりとしての発行はこれで終わりますが、今後は、図書館のホームページで開館時間をチェックしたり、My Libraryを利用したりするついでに、図書館から発信されるお知らせにも目を向けていただければ幸いです。

「専修大学図書館だより」休刊のお知らせと図書館の「これから」について

「図書館だより」は、2022年4月の第100号刊行をもちまして休刊いたします。

100号記念の今回は、専修大学図書館の「今」をお伝えしてきた前身の「図書館ニュース」そして「図書館だより」を第1号から辿り、図書館の「これまで」を振り返ります。刊行当初はB5判8ページの小冊子でしたが、時代の移り変わりとともにA4判となり、ミニブック形式、A3判リーフレットとサイズやデザインも変化しました。時には紙面の裏をブックカバーとして活用できるものなど、常に利用者の皆さんの手許にあるよう工夫を重ねてきました。近年は、より多くの方に閲覧してほしいとの想いからPDF形式を図書館ホームページで公開する方法で刊行してきました。

時代の変遷をも反映してきた「図書館だより」ですが、100号を一区切りとして休刊することとなりました。これまでのご愛読ありがとうございました。

今後の専修大学図書館の「今」そして「これから」は、図書館ホームページや図書館公式インスタグラム、YouTubeなどオンラインツールも活用しながら発信していきます。皆さんの好奇心を刺激し、思考力や創造力、情報活用力を高められるような情報をリアルタイムでお届けしますので、ぜひチェックしてください。専修大学図書館の「これから」は、皆さんの未来のために様々なサービスの充実を目指して進化していきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

図書館公式インスタグラムで
情報を発信します！